

各ワーキンググループ（WG）の開催・検討状況報告資料

ワーキンググループ名 ツーリズム、魅力向上情報発信WG

現時点における議論の方向性

課題認識	活用できる資源等
<p>○荒れている竹林が多い。</p> <p>○自然を相手に遊ぶ子どもが少なくなった。</p> <p>○遊べる自然は危険な場所もあり、金網等で囲い込んでいるところもある。</p> <p>○公園等が荒れている、安全でない。</p> <p>○洛西地域の観光客は市全体の0.1%と少ない。宿泊施設も少ない。</p> <p>○観光客のターゲティングが重要。</p> <p>○大原野の農産品のブランド力はまだ弱い。</p> <p>○ポータルサイトの立ち上げ当初は小さなイベント等の情報を掲載し地域の信頼を得ることが重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・竹林公園をはじめとする竹林や既存の公園、緑地、大原野の豊かな自然。 ・洛西NTの生物多様性（小畑川等） ・大原野の農業、農産品、フジバカマ、ひまわり、マルシェ等。 ・大原野の伝統的料理（かしのすき焼き等）。 ・フランスとの関連（市とパリの姉妹都市、セーヌ川にちなんだウサギ等）。 ・タウンセンターに資源が集約化している。 ・大原野出身のハリウッド女優（祐真キキ）。

議論のポイント（取組の方向性・内容）と具体的なアイデア・人材・資源

ポイント 1: 荒廃した竹林や既存の公園等を活かし、子どもが遊べる場をつくれぬか。また、豊かな自然や生物多様性等の活用にも着目できないか。

- ・竹林等を活かし若い世代が遊びに来る公園のような場が整備できないか。
- ・身近な公園等のプレイパーク化（イベント的なプレイパーク開催等）
- ・設備・遊具、緑の適切な管理、親子で楽しむことができる空間づくり（明るい空間、日陰、オープンカフェ等）、住民ニーズを活かした公園再整備の検討

【竹林公園の再整備について】

- ・遊具の設置、芝生の整備等、子どもの広場の再整備。
- ・園内外のサインや案内板の整備・充実。
- ・休憩施設の設置や夜間のライトアップ等園内施設の整備・充実。
- ・向日市側の放置竹林や資材置き場への改善指導。
- ・多様なターゲット層への対応。
- ・人材対応の案内システム導入や園内資源（竹、石仏等）をコンテンツにした情報発信やロケ現場としてのPR
- ・大原野等近隣施設や企業等と連携した取組（和婚スタイル打出し、ゲーム会社との連携）
- ・タケノコ食べ比べや竹皮を使ったおにぎり開発等、食に関する取組
- ・園内の飲食制限の緩和、利用料徴収（イベント時だけでも）

ポイント 2: 洛西・大原野の特性を活かしたインパクトのある打ち出し方ができないか。

- ・フランスとの関係性の活用等、周辺地域との差別化を図った発信ができないか。
- ・阪急高架下の洛西口～桂駅間プロジェクトと連携した動きがつけられないか。（阪急電鉄と連携した情報発信等の検討）
- ・タウンセンターの拠点機能の充実が必要。宿泊機能の充実や観光情報の発信機能の充実等が必要ではないか。

ポイント 3: 大原野の「売り」等を発掘し、洛西NTと結びつけてPRしていくことが必要。

- ・観光ルート、散策ルート、ジョギングルートを開拓し、農業と観光を結びつけて相乗効果を狙いたい。
- ・ランニングステーション等観光の拠点となる機能の設置・充実等が考えられないか。
- ・大原野の農業と観光を連携させた取組ができないか（農業体験等）。農作業や野菜食、竹の郷温泉等も活かし「健康長寿」のような打ち出しがつけられないか。（タケノコ食べ比べ等の観光プログラム実現へ向けた準備）

- 大原野の産品等を販売する直売機能を充実できないか。(エミナースや高島屋での販売機能充実の検討)

ポイント4:ポータルサイトは、地域向け生活利便情報以外にも魅力的な地域情報を発信し、居住者以外の見込み客の吸引を図る。

- 観光大使任命やブ`カ`-等を集めたツアー、TVやFBの活用等、工夫ある情報発信を行う。
- 大原野とタイアップした情報発信(近接性アピール、魅力資源、フジバカマ等)
- RCV やラクセーナ等と連携した情報発信の検討

ワーキンググループ名	タウンセンター・サブセンター施設検討WG
-------------------	----------------------

現時点における議論の方向性

課題認識	活用できる資源等
<ul style="list-style-type: none"> ○サブセンターの核店舗が撤退しているなど、商業機能の低下により、利便性の低下がある。 ○サブセンターの会館利用率が低く、利用促進や新たな活用の展開を検討する必要がある。 ○会館利用に関する手続きや利用料について使いやすくなればよい。 ○サブセンターに若干の空き店舗があり、活性化に向けた活用が求められる。 ○サブセンターの会館利用者などが駐車場を利用できない。 ○タウンセンターにおいて夜に営業している飲食店がなく、夜の賑わいが不足している。 ○タウンセンターにおいて、「滞留型」「時間消費型」の機能が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タウンセンターにおける広場やセンターコートなどの共用空間において、タウンセンター内の事業者・行政・NPOが協力・連携しながら、らくさいマルシェやイベント等の取組が実施されている。 ○タウンセンターで行われる夏祭りでは多くの住民が楽しんでいる。 ○各サブセンターにおいて、商店、住民、NPO等が主体的に、高齢者や子供等の居場所づくりの取組や、交流の場づくり、イベント開催などが進めている。



議論のポイント（取組の方向性・内容）と具体的なアイデア・人材・資源
<p>ポイント1:サブセンターの会館・空き店舗を活用した活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブセンターの利用状況や、利用者や権利者の意向（アンケート調査）に基づく、会館の利用促進や、会館・空き店舗の活用による活性化策の検討 →権利者意向のアンケートは集計中 →サブセンター利用者意向アンケートは2月中に実施予定 ・会館については、これまでの貸し館機能だけではなく、サブセンターに求められる新たな機能導入の可能性も検討 <p>ポイント2:タウンセンターのにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タウンセンターにおける、外部空間における小畑川との連携や、夜のにぎわいづくりに向けた取組の検討 ・洛西ニュータウンの文化度を向上させるような個性のある機能の導入を検討

ワーキンググループ名	子育て支援WG・ソーシャルワーキング WG
-------------------	-----------------------

現時点における議論の方向性

課題認識	活用できる資源等
<ul style="list-style-type: none"> ○洛西 NT では、短時間のリフレッシュ・病児保育など、育児負担の軽減のための託児ニーズがある。 ○子どもの貧困や「がんばる意欲がない」ことの課題がある。 ○共働き世帯がメインターゲットと考えられる。 ○既存コミュニティによらない交流ニーズがある（よっきき！など） ○生活動線となっているタウンセンターでの子育て支援のサービス提供が子育て世代にとって利便性が高い。 ○世帯構成の分析把握を行う必要がある。 ○既存の子育て支援団体や行政サービスの情報が知られていなかったり、利用・参加しやすくするためのきっかけ・雰囲気（デザインなども含め）が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民間の活動団体が洛西 NT では増えてきており、13くらいの子育て支援の団体がある。 ○ラクセーヌの空きスペースで体験的なイベントなどを実験的には実施できる環境にある。



議論のポイント（取組の方向性・内容）と具体的なアイデア・人材・資源
<p>ポイント1:デザインで魅せるわかりやすく届きやすい情報発信を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の既存資源（活動・サービス）を利用してもらえるような情報・つながりが必要(情報・サービスの見える化)。洛西子育てマークをつくるなど。 ・ママさんのデザインや手作りスキル等を活かした情報発信・コンテンツ作成 ・子育て支援の活動やビジネスにおいて、子育て中のママさんや子育てを卒業した世代の人材の活用による、子育て世代と社会との接点づくり・仕事づくり <p>ポイント2:サークルや団体間の連携と協働イベントによる「参加・体験」の機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て層などが既存の子育て支援のネットワークにつながるための情報やサービスの集約化，参加しやすくするための機会づくり ・子育て支援のサークルや団体の協働イベント（子育てフェア）の開催による「参加・体験」の機会の創出 →大きな枠組みは議論されたため、実施に向けた具体的な協議をスタートしている（1/30WG） <p>ポイント3:子どもの一時預かりサービスの充実や病児保育サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時預かりサービスのニーズや運営の可能性を確認するために、ラクセーヌの空き店舗などで試行的に1か月程度実験的な取組を実施 →実施に向けた具体的な協議をスタートしている ・病児保育については、運営を誰がどのように行うのか検討する必要があり、勉強会などから取り組む。 <p>ポイント4:子どものセーフティネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「生活力」「文化力」「意欲」を高めるために、子ども食堂のような取組を通じて、生活習慣の改善に取り組むことが大切。 ・子ども食堂を多くの団体で少しずつ実施するような活動の広がりをつくる。 →子ども食堂の実施意義を確認しつつ効果的な実施方法や広げ方を検討する必要があり、勉強会を行った。月1回の子ども食堂の取り組みでも子どもが抱える様々な問題を発見することができる意義があることや、スタートすると支援者が増えていくことなどを学んだ。

ポイント5:子育ての町としての魅力アップ・環境づくり

- 地域の資源を活かした教育環境・大学との連携なども含めた「子育て環境のブランディング」など
洛西NTの活性化・まちづくりにつながる視点
- 洛西で買い物すればポイントがたまる子育てパスポート洛西版（地場産業ともリンクさせことで経済活性化にもつながる）
- 小中学校と西京区内の高校・大学などの研究教育機関との連携による教育環境の魅力アップ
- 豊かな緑と生物多様性を「子どもが使える緑の魅力」として活用できるような整備（プレイパークなどの整備）

ワーキンググループ名	高齢者の居住支援WG
------------	------------

現時点における議論の方向性

課題認識	活用できる資源等
<p>○5～10年後に後期高齢者が一気に増加する。</p> <p>○高齢者の支援ニーズが増えてサービス供給が追いついていない。高齢者施設が少ない。</p> <p>○住宅のバリアフリー化が遅れている。エレベーターがない集合住宅は高齢者の外出も少なく、支援活動も大変。</p> <p>○団体間の連携不足。情報交換が必要。また、活動団体の人材の高齢化や人材不足も問題。年度替わりでの引継ぎも難しい。</p> <p>○高齢者支援の活動に取り組んでいても、理解してもらえていないこともある。</p> <p>○見守り活動の中で、高齢者の個人情報の取り扱いが難しい。災害時の徘徊対策等も必要では。</p> <p>○ニュータウン内はそれほど不便ではない。しかし買い物は不便。</p> <p>○人に認められることで地域への愛着や住み続けたいという意識につながる。</p> <p>○自治会加入率の低下。高齢者の3人に1人は地域に知り合いや友達がいないというデータがある。近所づきあいがいない人も増えている。</p> <p>○生活情報、居場所の情報等、情報発信の充実が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> •既に洛西ニュータウン内で取り組まれている要介護予防、健康づくり、居場所づくり、見守り等の活動。 •URが全国展開している医療福祉拠点化の取組 •タウンセンターやサブセンター •空き家や小学校などの空き教室



議論のポイント（取組の方向性・内容）と具体的なアイデア・人材・資源
<p>ポイント1: 洛西らしさを活かした生きがいづくり・認知症予防・認知症の方への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> •生きがいづくりについて、大原野の「農」とのふれあい等が考えられる。 •見守り活動の場や高齢者の生きがいづくりの場・居場所はもっとたくさんほしい。 •高齢者だけでなく、若い世代も交えた交流の場づくりができないか。例えば、高齢者が子どもの世話をする場づくりや大学と連携した取組等。 <p>ポイント2: 居場所づくり・見守り・介護予防など、既に行われている活動の支援・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> •見守り活動について、個別支援を行うなら民生委員、事業を通しての見守りなら社協等。また、自治会等地縁ネットワークによる認知症の人の見守り、事業者等との連携もあり得る。 •「コミュニティカフェ」のような居場所の拡充（既存施設等の活用の検討）。また、カフェ等の場を活かし、高齢者本人だけでなく、見守り等を行う団体同士の情報共有や情報交換が可能。 •軽度の認知症の方が地域で活動できる仕組みづくりの検討 •高齢者支援活動の拠点として、空き家や小学校等の空き教室、サブセンター、商業施設の空き空間、会館等を活用したり、UR等の賃貸住宅の賃料を安くして活用することも考えられる。 •多世代が交流できる場づくりやイベント、地元産食材を楽しめる場（食堂、料理教室等）づくりができないか。 •高齢者支援の活動団体や高齢者の居場所等に関して、一層の情報の発信を。 •「向こう三軒両隣」的なコミュニティを活かした見守りができないか（災害時含む）。 •支援活動団体の情報発信のため、団体を紹介する情報誌やラクセーヌの大型モニター等をもっと活用できないか。 <p>ポイント3: 高齢者や障害者が住み続けたいと思う住環境（住まい・買い物など・ふれあい・他のWGと一緒に）</p>

- タウンセンターやサブセンターの福祉的活用（→タウンセンター・サブセンター施設検討WGへ）
- 高齢者の「居場所」を巡るスタンプラリー等の実施や巡回バスの運行等が考えられないか。
- 「ブルーキャップ」のような高齢者のくらしを支援する活動を広げていけないか。
- 買い物の利便性向上につながる取組ができないか。
- ニュータウン内で展開されている高齢者の居住支援の活動やサービスをしっかりと発信していくことが、安心や住み続けてもらうことにつながる。
- 高齢者や障害者の地域での生活を支える情報発信の充実
- 障害や障害者に対する理解につながる啓発活動の展開，障害者の地域での生活を支えるボランティア活動の支援等

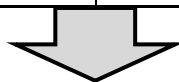
ポイント4: 洛西ニュータウン内の福祉・医療機能の充実

- ニュータウン内での地域包括支援センターの機能充実につながる取組ができないか。
- 医療機関と連携した、地域での健康づくり・医療機能の充実が図れないか。

ワーキンググループ名	住まいWG
------------	-------

現時点における議論の方向性

課題認識	活用できる資源等
<ul style="list-style-type: none"> ○空き家の発生は現状少ないが、今後増加することが想定される。管理不全の問題がある。 ○公的賃貸住宅について、間取り改善やリノベーション促進の視点が必要。 ○中古住宅の流通を促進する仕組みが必要。ボトルネックを把握して重点的に取り組む視点が必要。 ○洛西ニュータウンの景観・住環境の維持が必要。 ○住みやすいまちであることの情報発信が必要。(特にニュータウン外の子育て層へ) 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域連携空き家事業、空き家活用モデルプロジェクト、地域の空き家相談員等の取組。 • 若い人の流入を受けられることのできる空き家ストック。 • 中古住宅流通の際のインスペクション(住宅評価)制度の普及が社会的に進められている。 • 優れた住環境、景観。 • 公的賃貸住宅の活用可能性。 • 現在検討されているポータルサイト。



議論のポイント（取組の方向性・内容）と具体的なアイデア・人材・資源
<p>ポイント1:若い頃から高齢期まで住むことのできる洛西ニュータウンとするための「高齢期まで安心して居住できる住み替えシステム」の構築</p> <p>【流通促進の仕組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住宅の品質に対する不安を取り除き、適正な評価に基づいた中古住宅の流通と空きや活用の促進。そのために必要な仕組みや行政施策の推進、公的賃貸との連携。 ○住み替え促進のための子育て層の転入促進につながるリノベーション。JTI((一般社団法人)移住・住みかえ支援機構)の住み替え支援制度との連携。 ○住宅評価(インスペクション)等の推進とそれと連動した金融商品の開発など、中古住宅流通の仕組みづくり。 <p>【住み替えて暮らし続けるライフスタイル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ライフステージに応じて、洛西ニュータウン内での住み替えができる転居サイクルの確立。 ○福祉分野などにおける既存の相談機能を活用し、老後の暮らしをお金と住まいの側面からアドバイスできるようにするために、ファイナンシャルプランナーや不動産事業者等と連携し、住み替えを検討するのに必要な情報共有を進める。 ○OUR住宅などを活用した高齢者が住みやすい住宅ストックの整備 ○高齢者の生活を支援するための福祉・生活関連サービスの誘致と連携による、まち全体で「高齢期まで住むことのできるまちづくり」の推進 ○住み替えを支援するためのコミュニティビジネスの立ち上げ(家財道具の処分支援など) <p>ポイント2:良好な住環境や景観の保全。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○良好な景観や住環境の維持等、まちの価値を維持するためのルールづくりの視点やまちの魅力を言語化し共有するツールづくり。 <p>ポイント3:住みやすいまちであることの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若い頃から高齢期まで安心して住み続けることができるまち、魅力的なまちであることをPR。 ○洛西ニュータウンで実現できる高齢者のアクティブなライフスタイルを具体的なイメージとして発信。